

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970700241		
法人名	社団医療法人 英静会		
事業所名	グループホーム 憩いのもり		
所在地	栃木県日光市根室607番地7		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?OpenAgent
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人International Social Service CultureCenter		
所在地	栃木県塩谷郡塩谷町大字熊ノ木1099-1		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化と重度化および認知症の進行により、全員での外出や定期的な行事などへの参加が困難になってきており、特に本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外出ほか屋外でのイベントは自粛しているが、日常生活の中で個別に対応し本人の自立を常に考え、自分らしく生活できるよう関わっている。当事業所では経験豊富なスタッフと隣接の老人保健施設(森の家)や森病院との連携で身体的にも良好な方から認知症の重度な方まで個別に対応できる。近隣に民家が無く地域を意識しにくい環境ではあるが、運営推進会議等で地域への繋がりや輪を広げていけるよう地域包括支援センターと協力し、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市東部の森に囲まれた閑静な環境に位置し、近くには青少年スポーツセンターと、隣接に同法人の介護老人保健施設がある。理念「ゆったり・たのしく・いっしょに」の言葉をもとにケアを実践し、身体拘束しないケアや接遇についても法人全体で研修に取り組んでいる。月2回の往診と夜間緊急時に、主治医の携帯電話に連絡できるようになっており、安心して適切な医療が受けられるよう連携が取れている。日々の生活の中で寝たきりであっても職員は利用者と一緒に楽しく会話をしている。地域住民との関わりは、定期的に老人会の方や保育園児等との交流が行われている。しかし、本年は昨年と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、イベントや交流は自粛している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より基本理念に基づいたケアの実践を行なっている。	理念は玄関・事務室に掲示してある。職員は日々のケアの中で基本理念「ゆったり・たのしく・いっしょに」頭書に添いながら、共有し合い実践に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	立地的に森の中の複合施設なので日常的な近所、地域との交流は困難な状況ではあるが、地域の行事や憩いのりの行事等で老人会や地域の方と定期的に交流を行う工夫をしている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、イベントや交流は自粛している。	法人において自治会に加入している。運営推進会議で事業所の行事開催を報告し、地域の方への参加を呼びかけている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出や交流は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な行事や地域との交流を通じて入居者と交流を図っている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事等は自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催している。介護保険課、地域包括支援センター、家族、民生委員、地元のボランティアの方たちに運営状況、今後の予定、アクシデント等、報告と意見交換を行なっている。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、書面にて対応している。	運営推進会議は2ヶ月に1回家族・自治会長・民生委員・地域ボランティア・市担当者・地域包括支援センター職員の参加により開催している。会議では運営状況を報告し、参加者の意見交換を参考にサービス向上に活かしている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、書面にて実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当と担当地域包括支援センターの職員が必ず出席していたり、運営に関しての相談や情報など親切に指導をしていただいている。	運営推進会議において市担当者から情報を得たり、法改正の事や事業所人事配分変更について、また、研修状況についての助言・相談を受けながら良好な協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は手動で開閉できる。(スタッフは入居者が安全に過ごせるよう居場所や行動を常に把握している)	法人全体で、身体拘束の定義により研修を実施している。管理者は寸劇を通じた研修を学び、職員全体に共有したケアを伝えるなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体でスタッフに定期的な虐待チェックを行ない、自己のケアを振り返る機会を設けている。スタッフ間でもお互いが注意し合える関係や雰囲気を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないので現状運用が無いが、現ケアマネが老健相談員経験があり運用実績がある。必要に応じ老健と連携をとり運用できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には十分理解していただけるよう説明している。制度の改定時は説明、同意書を作成して理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話で入居者の近況を報告、説明したり、こちらの意向を伝えたり会話をする機会を多く持てるようにしている。家族の意向や疑問などは運営推進会議を通じて聞くように努めている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、家族の協力を得て面会等を自粛している。	家族が月1回面会に来ており、日々の生活状況を伝える中で要望や意見を聞いている。運営推進会議においても意見が出され、家族同士の会話の中での意見も大切に受け止めながら、運営に反映させている。しかし、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、面会等は自粛している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も他のスタッフと同じ業務を日常的に行なっているので、問題点や課題等を共有できており、日々の業務の中でスタッフの意見や提案をケアの中に随時反映できている。	職員は管理者と話しやすい環境となっており、月1回の職員会議に様々な行事についての意見や、朝の申し送り・ケアの中での提案を随時実施し、意見反映に努めている。安心安全のため、浴室に手すり増設の提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、管理者カンファレンスがあり法人の管理者へ実績や課題、成果を報告している。職場の環境や労働条件等は常に報告と相談を行ない、風通しの良い環境で適切にスタッフが評価され皆が向上心をもって勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修に参加できるよう希望者を募り勤務表を配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設は県グループホーム協会の事務局担当施設のため常時交流がある。協会の集まりや研修にも常時参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談時には、本人の状況を聞き取り、安心して生活できるよう、環境や人間関係づくりに職員全体で取り組んでいる			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の面談時には家族の不安や心配事にも時間をかけて聞き取りするよう心がけている面会時も状況を報告するよう配慮している毎月発行している写真月の新聞も家族に喜ばれている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いと家族の思いが相反することがあるが互いにとって最善の状況を作ることができるよう努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況に応じて日常的に出来ることは積極的にこなさせていただいている。調理、洗濯買い物など共に生活する家族という思いで接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との繋がりを保つために、連絡をとり、面会や外出、外泊、通院の協力をお願いしている。また行事への参加も呼びかけている。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、自粛している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族との面会は通常歓迎している。(キーパーソンの方の了解を得て)可能な範囲で住んでいた地域へのドライブや公園への外出など行なっている。本年は新型コロナウイルスの影響により、外出等は自粛している。	親戚の方や友人・知人が時々来所し、歓談しやすいように継続の支援に努めている。美容室等には、家族の協力を得て出かけられるよう支援をしているが、本年は新型コロナウイルスの影響により、自粛している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特技を把握し、良い人間関係が築けるよう、スタッフが入居者との間にはいり橋渡しをおこなっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院した場合や同法人の老健に入所した場合でも、希望に応じご家族と相談をしたり、面会に行ったり職員と情報の交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに添えるケアが出来るよう、様々な外出や行事を計画したり、日常生活の中でも自立支援を念頭にしている。本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設内行事(誕生会)になっている。	一人ひとりの思いを日々の生活の中で把握したり、家族からの情報を得て外出や行事の中にプランを取り入れ、本人の思いに添える検討に努めている。本年は新型コロナウイルスの影響により、外出等は自粛している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや面会に来た親族、本人から生活環境や生活歴等を聞き日々のケアや生活に反映できるようスタッフ同士で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状況に応じて一日の過ごし方を変えている。日々のスタッフの申し送りによって体調や精神面の変化などを把握している。また、主治医等と連携をとれる体制がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はケアマネが作成しているが職員の申し送りやミーティングの中でより良いケアの提案をし随時介護計画に反映させている。	毎月モニタリングを実施している。職員会議での報告や朝の申し送り・提案を参考に現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月から1年である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記録し毎日の申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに出来る限り応えるよう努力している。入居者の心身の状況に応じて同法人の介護サービスや他の事業所も視野に入れて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しそれを利用しながら本人が生活を楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から2週に1度の往診をしていたり、定時薬を処方してもらっている。他にも必要に応じ体調不良や救急時は家族、またはスタッフが付き添い、希望病院に受診している。	ほとんどの利用者が、協力病院で2週間に1度の往診を受けている。また、緊急時には夜中でも主治医が携帯電話で対応し、安心できるかかりつけ医の受診体制が整っており、職員が付き添いながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力施設や病院との連携で24時間、心身の状況変化に対応ができています。現在、終末期の方が入居されているが、主治医、家族、スタッフの連絡、調整を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人に協力病院があり、希望があれば入院できるよう連携がとれている。医師、ワーカーとも連絡がとりやすい環境のため見通しを含めた相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合のことは家族と相談しており、医療面など憩のりでの生活が不可能な場合は老健や病院への移動を含めた対応で了解をいただいている	看取りの指針ができています。契約時に出来る事・出来ない事を利用者・家族に説明して、理解を得ています。職員は、重度化した利用者に主治医や看護師との連携を図りながらペースト状の食事介護を支援し、出来る範囲での取り組みをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において救急処置や感染対策などの合同の研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練、災害時訓練は定期的の実施している。運営推進会議においても地域の方に協力をお願いしている。	防災避難訓練は、消防署の指導のもと定期的に実施している。運営推進会議時に消防士による防災避難訓練の様子をスライドで観て確認し、更に地域の協力をお願いしている。備蓄は事業所内に水を確保しており、食糧は隣接の介護老人保健施設に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した接遇を心がけている。	年間計画で法人内接遇研修を実施している。一人ひとりの人格を尊重し、さりげなく目線に合わせた言葉かけ等の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを大切に自己決定できる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの勤務状況に応じて可能な限り本人のペースで希望に添った支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧をする方の化粧道具の購入の支援を定期的に行なっている。朝の起床後に洗顔と整髪の手伝いを行なっている。2ヶ月に1度、理容店の来訪があり入居者の希望に沿った髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や栄養のバランスを考慮した献立をスタッフが考えて調理は入居者と出来る範囲で行なっている。食事の準備、後片付けも、出来る限り手伝っていただいている。	食材を生協に注文し、献立は職員が家庭的なメニューを考え、隣接している介護老人保健施設の栄養士に確認を得ている。食事は介助や会話をしながら職員も一緒に摂っている。準備や片付けを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は常に注意を払っている。特に重度の方は身体状況に直結するので配慮している。月に一度の体重測定を基に栄養のバランス等を検討して食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕と毎食後に全員の口腔ケアを実施している。介助が必要な方には毎回、口腔内の観察と共に必要なケア(ブラッシングや口腔清拭)をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	快適で自立した排泄目標に個々の排泄パターンに応じた支援を行なっている。また個室では、ポータブルトイレを使用時などプライバシーの配慮を心掛けている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、タイミングを見て何気ない声かけ誘導に努めている。利用者のプライバシーを配慮して、夜間等はポータブルトイレを居室に配置し自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立を工夫したり、水分摂取も個々に対して配慮し日常生活の中で体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行なっている。入居者の重度化で現在、介助を要する方が多くなってきてはいるがご本人の希望に沿った形で入浴を提供している。	基本週2回午前中の中の入浴支援に努めている。介助が困難な方には、シャワー浴や清拭での対応に努め、利用者個々の希望に沿った季節の入浴が楽しめるよう入浴剤を使用し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の心身の状況に応じて夜間、不眠にならない程度に日中、休息が取れるよう配慮している。また、ご自分の寝具を使用いただいたり、就寝時間についても本人のペースや希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携で小さな変化にも対応できている。介護スタッフも服薬の意味や作用を認識し慎重に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で一人一人に出来る範囲の役割や楽しみがあり、当たり前のようにそれが実施されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望やまた、こちらからの働きかけによって、戸外への散歩やドライブを定期的に行なっている。本年は新型コロナウイルスの影響により、外出等は控えている。	ドライブで季節を感じながら近くの公園まで行き、散歩が楽しくなるよう努めている。個別の外出は家族の協力により受診や買物・外食に出かけられるよう支援している。しかし、本年は新型コロナウイルスの影響により、外出等は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理できる方は小額を本人に預けて買い物時に自由に使ってもらっている。その他の方に関しては小遣いを預かり、スタッフが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいて家族との繋がりを実感して欲しいと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は清潔で快適に過ごせるよう整備している。殺風景にならないよう、季節の花を飾ったり、壁に季節の飾りを施している。	玄関には季節の花が飾られ、リビングフロアーや壁面には行事の写真・絵画があり、利用者の目を楽しませている。また、明るさや温湿度が快適に管理され、和室にて歓談もできるような居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは十分あり、気の合う方とソファで語り合ったり一人で新聞を読んだりと思いに過ごせる環境作りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の生活を知りながらご家族からの馴染みの物の持ち込みや居心地の良い環境設定に努めている。	居室は和室と洋室があり、カーテン・ベッドは事業所の物であるが、個人でベッドを持ち込んでいる方もいる。また、利用者の使い慣れた物や写真・絵を飾り、安心ある居室作りをしている。和室に於いては利用者の身体状況により動きやすいようフローリング調にするなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっているがトイレの表示や自室に名前を掲示するなど、本人が認識しやすく自分の判断で安全に行動できるよう配慮している。		